

国営明石海峡公園 神戸地区の現状と課題

令和 5 年 3 月 15 日

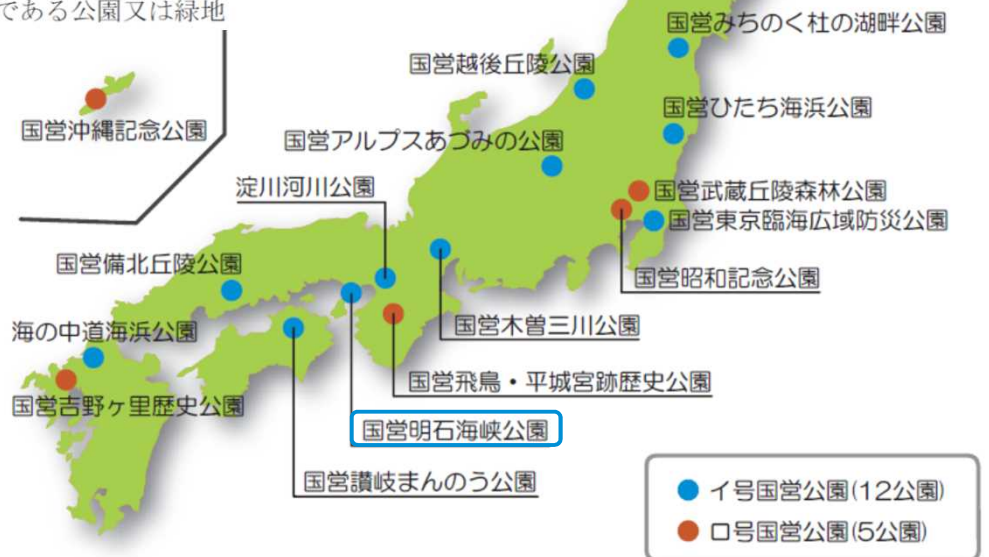
国土交通省近畿地方整備局
国営明石海峡公園事務所

国営明石海峡公園の概要

- 国営明石海峡公園は、明石海峡大橋を挟んだ周辺地域の広域的なレクリエーションニーズに対応するため、「神戸地区」と「淡路地区」の2地区で構成する、国が整備・管理を行う都市公園（国営公園）
- 平成6年度に公園基本計画を策定。基本理念は「自然と人との共生、人と人との交流」
- 平成5年度に事業化し、淡路地区は平成14年、神戸地区は平成28年に第一期開園

◆イ号国営公園
一の都府県の区域を超えるような広域の見地から設置する都市計画施設である公園又は緑地（災害時に広域的な災害救援活動の拠点となるものとして国が設置する都市公園と国が設置するその他の都市公園に分けられる）

◆ロ号国営公園
国家的な記念事業として、又は我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るために閣議の決定を経て設置する都市計画施設である公園又は緑地



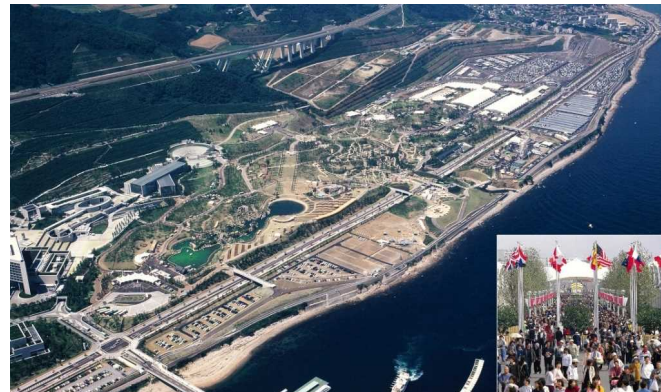
神戸地区	位置：兵庫県神戸市北区・西区 計画面積：約234ha 開園面積：約46.2ha
淡路地区	位置：兵庫県淡路市 計画面積：約 96ha 開園面積：約43.1ha



- 国営明石海峡公園 淡路地区は、関西国際空港等の大阪ベイエリアの埋立に使用された土取場跡地を兵庫県と連携して自然再生
- 「海辺の園遊空間」をコンセプトに国際的な観光拠点となる公園として整備。平成12年に国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000」の会場となり、平成14年3月に第一期開園
- 年間入園者数は約50万人。令和4年3月に開園20周年を迎え、累計800万人以上が来園
- 令和2年に国営公園では初のPark-PFIの事業計画（公募設置等計画）を認定。令和4年7月に施設オープン



関西国際空港等の埋立に使用された土取場跡地



国際造園・園芸博「ジャパンフローラ2000」開催



淡路地区の整備状況



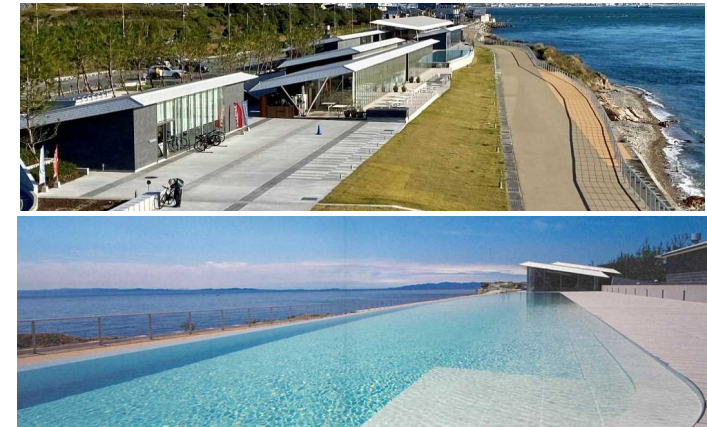
淡路地区の開園区域：大規模な花修景



大型遊具・水遊び場（じゃぶじゃぶ池）



芝生広場でのイベント（淡路市夏まつり）



Park-PFIによる複合温浴施設「アクアイグニス淡路島」

神戸地区の隣接施設



キーナの森 (面積64.5ha 平成29年7月開設)

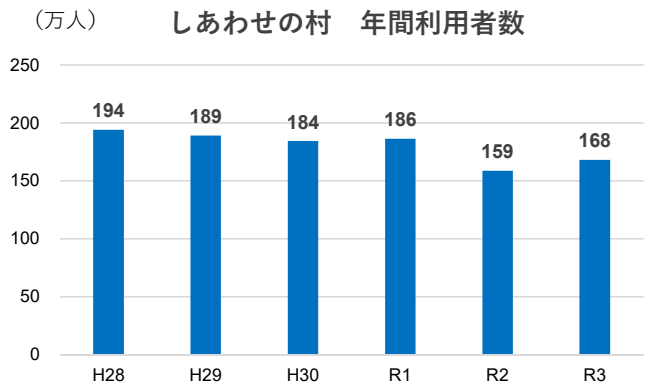
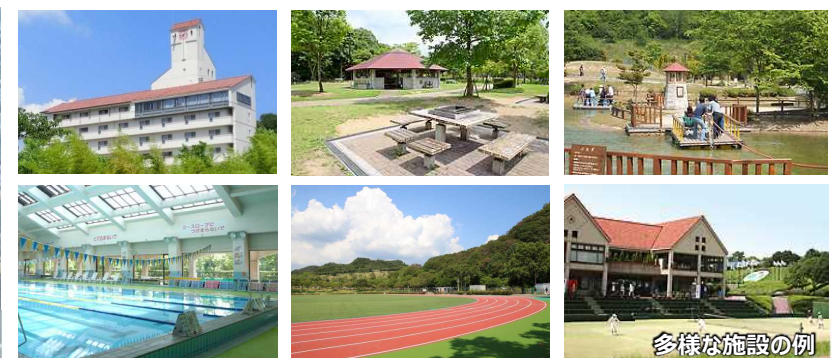
- 本公園と一体で「生物多様性保全のシンボル拠点」として神戸市が整備・管理
- 市民参加の里山保全活動により、希少種の保護を含めた豊かな生物多様性の保全・育成とともに、環境学習や市民活動の拠点として活用



〈出典〉・神戸市公園緑化協会HP

しあわせの村 (面積205ha 平成元年4月開村)

- 高齢者・障がい者の自立や社会参加を支援する福祉施設と都市公園を神戸市が一体的に整備・管理する複合施設
- 福祉施設、宿泊・温泉施設、プール・体育館、運動広場・テニスコート、キャンプ場、アスレチック等多様なスポーツ・レクリエーション施設があり、年間150万人以上が利用
- しあわせの村から本公園への移動手段として無料送迎バスを定期運行



〈出典〉・しあわせの村HP



- 神戸地区は、**藍那（あいな）地区に位置**。藍那のある山田庄（丹生山田郷）は摂津国八部郡に属した荘園で、播磨国との境にあることから「相野（あいの）」と呼ばれ、「藍野」、「藍那」に転訛したと言われる
- 平家物語の一ノ谷の合戦（1184年）において、源義経の進軍にまつわる古道「**鶴越道（ひよどりごえみち）**」が公園に隣接し、源義経が軍議を開いたとの伝承がある「**相談ヶ辻（そうだがつじ）**」という地名がある
- **耕作地は居住域から山間部に離れて分布**。江戸時代初期（17世紀頃）に大きなため池と田んぼの主要な部分ができ、18世紀頃から明治初期にかけて山の中に小さなため池をともなう**棚田**が切り開かれていった。田んぼ周辺では、木の伐採を兼ねて**燃料用の柴・薪、炭**が生産され、明治半ばには炭は有力な物産となった
- **昭和30年代以降**、燃料革命や生活スタイルの変化等により、耕作地や周囲の山の手入れがなされなくなり、ネザサやツル等が茂る**荒れた状態**となっていた



藍那地区 位置図



摂津国名所大絵図（天保7（1836年）抜粋



相談ヶ辻の茅葺民家（昭和30年代）



公園整備前の棚田跡（平成14年）



市民活動団体による炭焼き体験（令和5年1月）

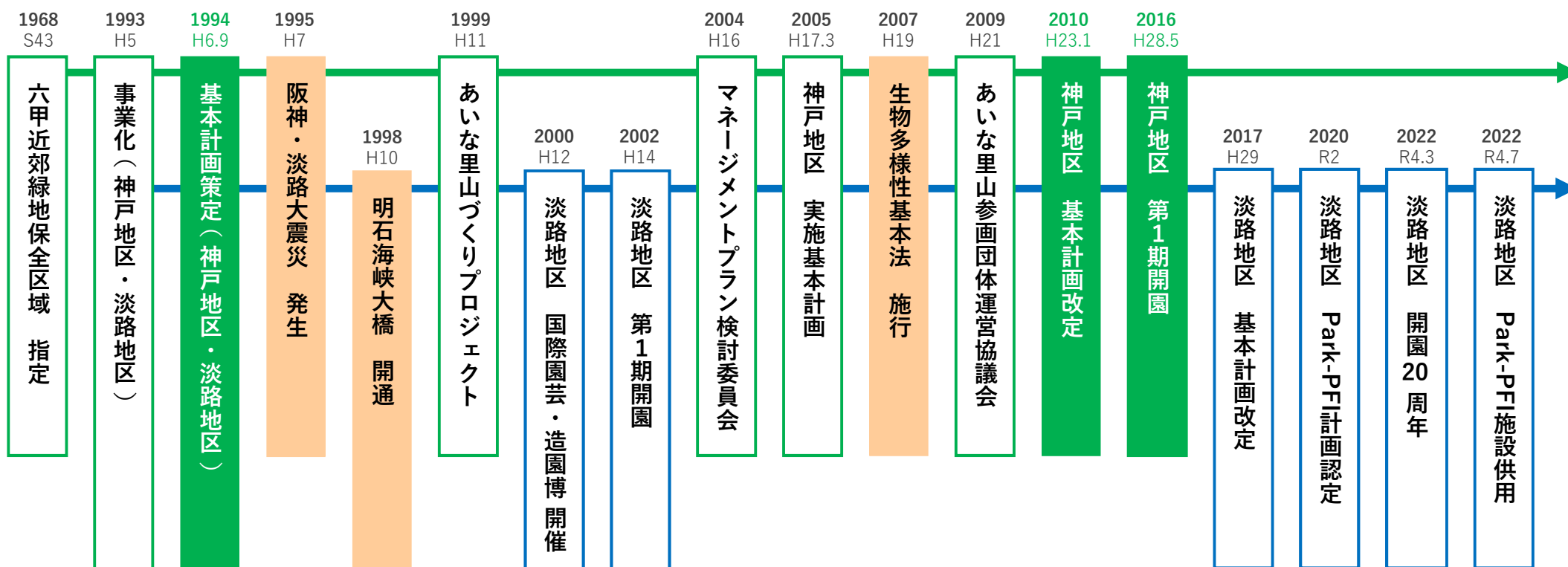
〈出典〉

平成19年度研究成果報告書『藍那地域の歴史的環境に関する研究及び活用についての研究』（平成20年）
 森田竜雄『神戸市北区山田町藍那地区における昭和三〇年代の生業記録：稲作を中心に』（平成21年）
 平成20～21年国営明石海峡公園神戸地区基本計画策定委員会（第2回）資料
 猿渡真純・藤井厚企『あいな里山公園における維持管理の取り組み事例紹介』（令和2年）



神戸地区の公園緑地の歩み

- 神戸地区を含む緑地は、無秩序な市街化の防止や、住民の健全な心身の保持・増進、公害や災害の防止を目的として、**昭和43年に六甲近郊緑地保全区域に指定**（面積13,060ha、近畿圏の保全区域の整備に関する法律により国土交通大臣が指定）
- 平成3年度に国営明石海峡公園（仮称）整備促進協議会が発足し、**平成5年度に2地区を事業化**
- 平成6年度に公園基本計画（2地区）を策定**、神戸地区は平成8年度に都市計画決定及び都市計画事業承認
- 平成11年度より藍那地区等の市民参加による公園づくり「あいな里山づくりプロジェクト」を開始**
- 平成16年度にマネジメントプラン検討委員会を発足、第1期開園に向けた実施基本計画を策定
- 里地里山における生物多様性保全等の状況変化に対応するため、**平成22年度に神戸地区基本計画を改定**
- 平成21年に市民参画団体で構成員する「あいな里山参画団体運営協議会」が設立**
- 平成28年5月に神戸地区第1期開園**（棚田ゾーン等、開園面積41.3ha）※令和5年5月に開園後7年が経過

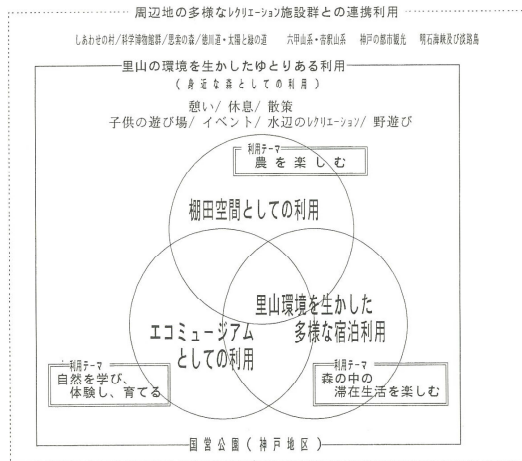




神戸地区の当初基本計画 (平成6年9月)

- 神戸地区の基本的考え方は、「里山の環境を生かしたゆとりある利用（身近な森としての利用）を図る」
- 土地利用ゾーニングとして、神戸市の施設計画に隣接し主入口となる「中心ゾーン」、新たに草地空間を創出する「野遊びゾーン」、里山景観を継承し、農村生活の体験の場となる「棚田ゾーン」、周辺施設と一体で宿泊滞在拠点施設群となる「林間宿泊ゾーン」の4ゾーンを設定
- 里山を守り育てるため、緑の保全、景観、里山の整備管理の計画で構成する「里山のランドスケープ計画」により、植生景観の目標、維持・管理方法等を設定

■神戸地区の利用の考え方 (当初)



■土地利用ゾーニング概要 (当初)

中心ゾーン (約45ha)

- 木見IC近く、神戸市「街のエリア（科学博物館ゾーン）」に隣接する主入口
- 公園全体のセンター機能を整備

野遊びゾーン (約72ha)

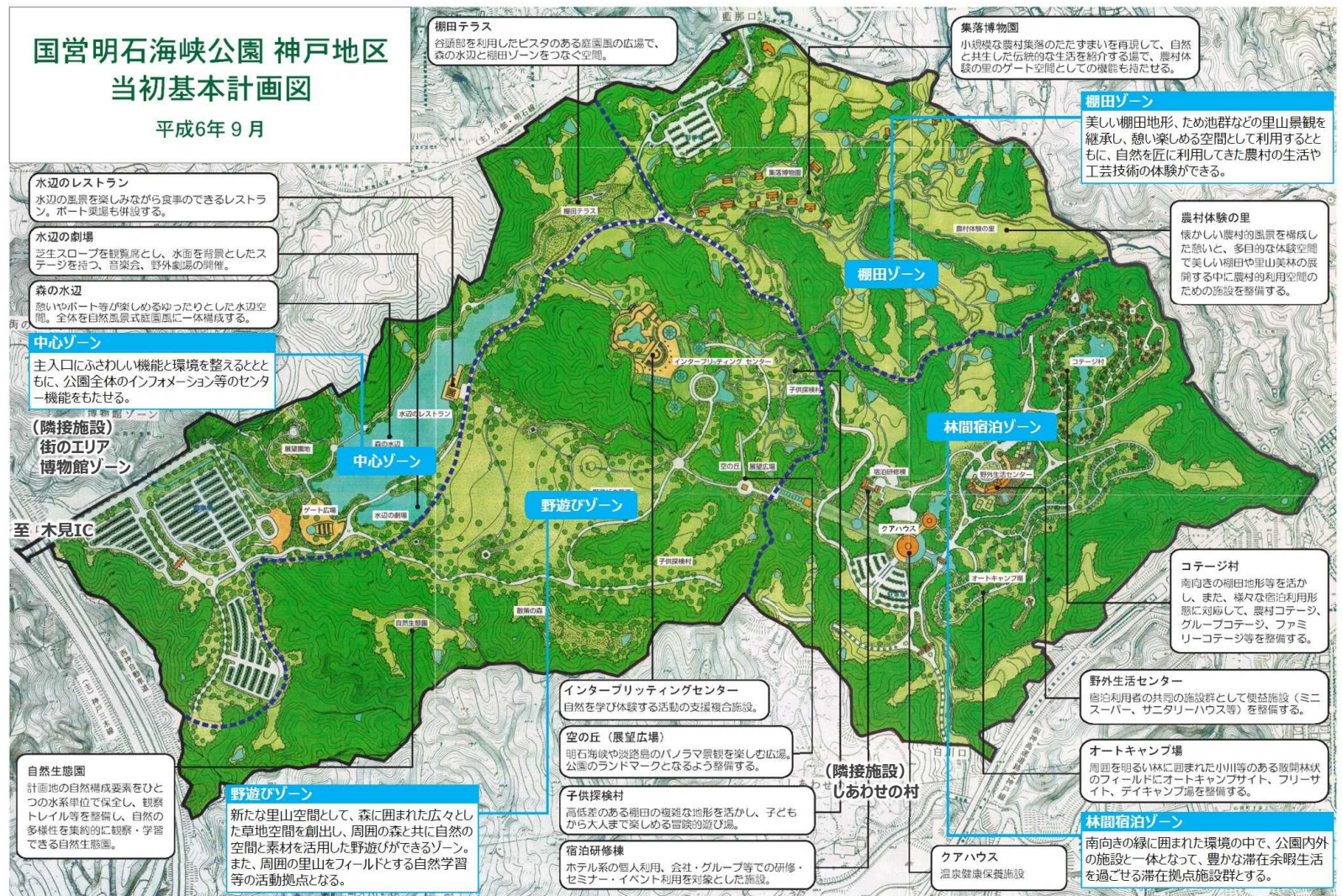
- 新たな里山空間として草地空間を創出
- 自然学習等の活動拠点を整備

棚田ゾーン (約52ha)

- 棚田地形、ため池等の里山景観を継承し、憩い楽しめる空間として利用
- 農村生活や工芸技術の体験施設を整備

林間宿泊ゾーン (約65ha)

- 公園内外の施設と一体となって、宿泊滞在拠点施設群を整備





- 平成19年に第3次生物多様性国家戦略が閣議決定され、平成20年に生物多様性基本法が施行。神戸地区において生物多様性の保全を図ることが必要
- 第1期開園に向けた実施基本計画（平成17年3月）、マネージメントプラン検討委員会、開園に先行した維持管理の試行など取組を実施。基本理念、基本方針は変更ないが、土地利用やゾーニング等が異なっている
- 周辺施設の計画・整備進捗状況、市民参加の機運の高まりなど、社会条件の変化に対応することが必要

■当初基本計画策定以降の状況変化

1 自然条件への対応

- ①第三次生物多様性国家戦略（平成19年11月閣議決定）
 - ・里山の自然環境は「第2の危機（人間活動の縮小による危機）」
- ②生物多様性基本法（平成19年11月閣議決定）
 - ・国の施策として「里地、里山等の保全を図るため、地域の自然的社会的条件に応じて当該地域を継続的に保全するための仕組みの構築その他の必要な措置を講ずる」ことを位置付け

2 社会条件への対応

- ①周辺施設の計画・整備進捗
 - ・隣接する神戸市の科学博物館ゾーンは、社会情勢の変化等を踏まえ、生物多様性のシンボル拠点（現キーナの森）に計画見直し
 - ・第1期開園区域を棚田ゾーン等とし、センター機能の配置見直し
- ②宿泊施設等の見直し
 - ・公的施設の改革の一環として、国又は特殊法人等が設置主体となる宿泊施設等は新設・増築は行わないこととされた（民間と競合する公的施設の改革について（平成12年5月26日閣議決定））
- ③コスト縮減、費用対効果の向上
 - ・現況の自然環境や景観を活かし、自然改変を抑制することで整備コストを縮減し、費用対効果を高めることが必要
- ④市民参加の機運の高まり
 - ・公園緑地を対象とした企業のCSR事業、ボランティア活動など、市民参加の機運の高まり
 - ・神戸地区での市民団体の継続的な活動を位置付けの明確化が必要

■主な改定内容

1 里地里山文化公園を目指す

- ・生物多様性のホットスポットとしての可能性を有する
- ・歴史文化や自然を「動態」として保全・継承し、生物多様性の保全を図る「里地里山文化公園」を目指し、市民参加による取組を推進

2 管理便益施設の配置及び宿泊施設等の見直し

- ・「中心ゾーン」に集約していた管理・便益施設の配置を見直し
- ・民間・周辺施設と競合する宿泊施設・クアハウス等を見直し、隣接するしあわせの村と連携

3 ゾーニング見直し

- ・「林間宿泊ゾーン」は宿泊施設の整備を取り止め、「野遊びゾーン」から機能を移転集約し、遊びや学習施設を配置する「森のゾーン」に位置付け
- ・「野遊びゾーン」は、人の手による維持管理の必要な里山環境を保全し、環境教育等の利用と調整を図りながら、サンクチュアリとして守り育てる「自然保全ゾーン」に変更

効果 = 里地里山景観の保全・継承

- 里山の管理、棚田の再生、茅葺き建物の移築等により、**里地里山景観を保全・継承**
- **再生する棚田等の盛土に補強材を使用し、法面の流出・崩落を抑制して修繕頻度を減らすことで、環境・景観に配慮しつつライフサイクルコストを縮減**



再生した棚田と移築した茅葺き民家（白拍子の家）



盛土補強により再生した棚田景観（代ヶ谷棚田）



盛土補強材の設置状況

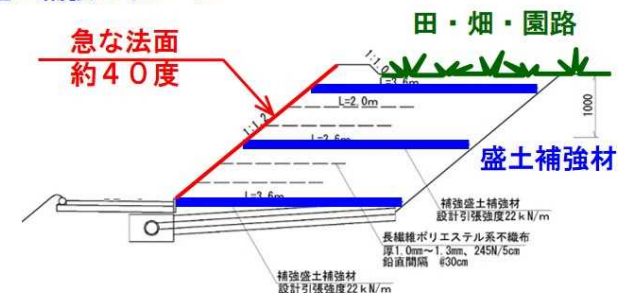


繁茂した竹や樹木を伐採し手入れした里山林



地元高校生の協力による早乙女田植えの再現

盛土補強のイメージ





- 市民活動団体との協働により、地域の方々の自然や歴史文化に関する知識・技術を活かした農作業や収穫、里山の暮らしなど、季節の移ろいを感じられる多様な里山体験プログラムを提供。多くの小中学校が体験学習の場として活用するなど「里地里山文化」の継承に寄与
- 市民活動団体で構成する「あいな里山参画団体運営協議会」が主体的に公園の管理運営に参画。令和4年度より「あいな里山公園 市民活動ガイドブック」を作成・公表し、新規団体を募集開始

里山体験メニュー

参加費無料！



耕作などの里山作業と作物の収穫が体験できます！
1時間程度で気軽に参加できるプチメニューです。
毎日、午前と午後開催しており、里山作業と一緒に楽しんでから、野菜の収穫体験をしていただきます。

●里山作業 (例)



●お楽しみ！収穫 (例)



里山体験プログラム



土日祝を中心に行っている四季折々の里山を楽しむプログラムです。

自然 	昆虫採集	水辺の生きもの観察	探鳥会
食 	山菜の天ぷら	あいなうどん	窯出しピザ
暮らし 	かかしづくり	しめ縄づくり	餅つき
手入れ 	しいたけの菌打ち	茅刈り	炭焼き

4大まつり

あいな里山公園の
メインイベント！



田植えまつり 5月下旬

お米作りの第一歩。昔ながらの田植えを体験していただけます。



やまももまつり 7月上旬

藍那の名産品であるやまももの収穫をお楽しみいただけます。



里山まつり 10月中旬

里山の秋の収穫祭。稲刈りや芋掘りを中心に様々な体験をお楽しみいただけます。



初まつり 1月中旬

新年を迎え、1年の無病息災と五穀豊穡を祈願するとんど焼きを行います。



国営明石海峡公園 神戸地区
あいな里山公園

自然いっぱい、の里山公園で何ができるかな？

市民活動団体の新規募集がはじまります！

あいな里山公園では、開園前から市民団体の方々、田畑での耕作、野草や生き物の保全・調査、炭焼き、竹の活用、茅場づくりなど、楽しみながら、公園の魅力や楽しみ方を来園者にお伝えする活動を行っています。(裏面参照)

平成28年の部分開園から5年以上が経過しました。公園の魅力高め、また、今後の未開園区域の整備を協働を進めていくため、新たに公園で活動していただける市民活動団体を募集します。

あいな里山公園はこんなところですよ！

あいな里山公園(国営明石海峡公園 神戸地区)は、自然との共生・伝統的な自然観を継承する「里地里山文化公園」を目指した国営公園です。
公園全体がかつては藍那集落の方々から田畑や薪炭林(しんたんりん)として利用していた里地里山で、雑木林や竹林、樹田跡、ため池、野草など、多くの来園者に里山体験や里地里山の風景をお楽しみいただいています。

開園している種田ゾーンでは田畑でお米や野菜を栽培しています
四季折々の自然があり里山でしか見られない草花が楽しめます
妻島古民家のある里山で移りな里山体験やイベントが行われています
茅材となるスキヤレングなどの野草を使って工作や農具づくりができます
茶林でいるる女遊びのしいたけ栽培など木をさまざまに使えます
まちでは見られないいろいろな虫や魚が見られます

未開園区域にはかつての種田跡が残り、広場としても使えます
モッコクやマダケ等の竹林があり、竹細工などに使えます
種木林でいるる女遊びのしいたけ栽培など木をさまざまに使えます
まちでは見られないいろいろな虫や魚が見られます

**あいな里山公園での活動にご興味のある方は下記までご連絡ください！
新規の団体を随時募集しています！**

国営明石海峡公園神戸地区 あいな里山公園 〒651-1104 神戸市北区山田町藍那字田代
電話：078-591-8000 FAX:078-591-8001 メールアドレス: aine@kobe-park.or.jp
ホームページ: <https://kobe-kaikyoark.jp/shimin>
事務局: 国土交通省近畿地方整備局国営明石海峡公園事務所・あいな里山公園管理センター



- 神戸都心の残された里地里山の自然環境には、希少種を含む多様な動植物が生息・生育
- 神戸市の環境アセスメント制度（神戸市環境影響評価等に関する条例等）に基づき、公園工事の際には希少種の調査、移植等を実施
- 公園管理センターや市民活動団体等により公園内の動植物の調査、保護活動、観察会等を実施

■神戸地区に生息する動物の例



■神戸地区に生育する植物の例

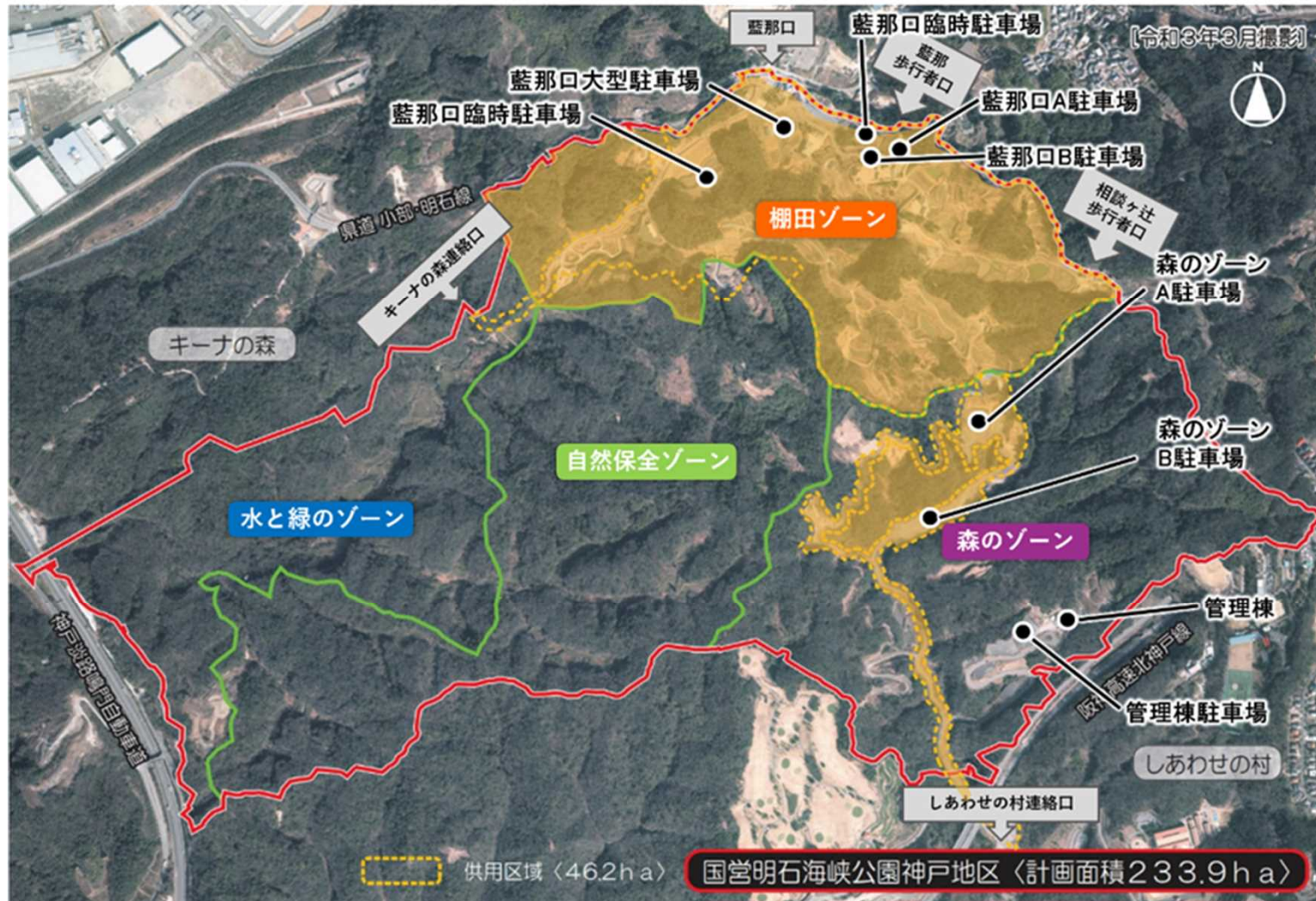




課題 = 未開園区域の効果的な整備推進

- 神戸地区は計画面積233.9haのうち46.2haを供用。約8割が未開園であり効率的・効果的な整備推進が必要
- 第1期開園の主要エリアである「棚田ゾーン」は整備を概成。国営明石海峡公園整備・管理運営プログラム（令和3年6月）において、令和7年度までの重点事項の一つに「森のゾーン」の整備推進を位置付け
- 基本計画に基づき「森のゾーン」には、子どもの遊びなど幅広い余暇活動や自然環境について学習を行う施設、神戸地区のメインエントランス及び中核的施設としてビジターセンター等の整備が必要

■神戸地区の供用区域



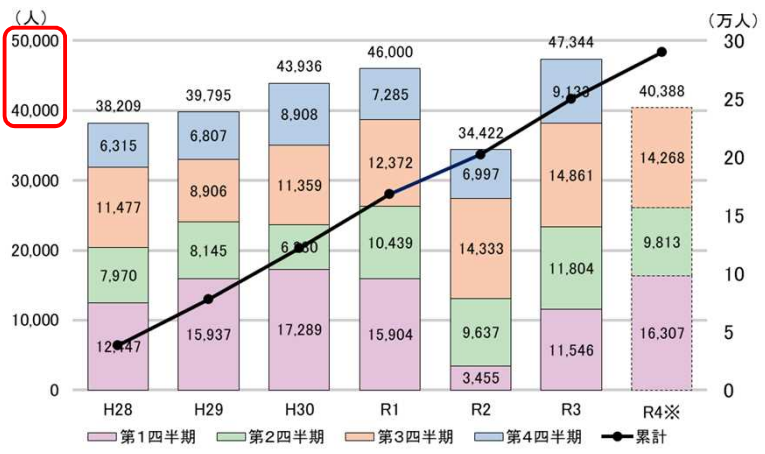
■森のゾーンの供用施設



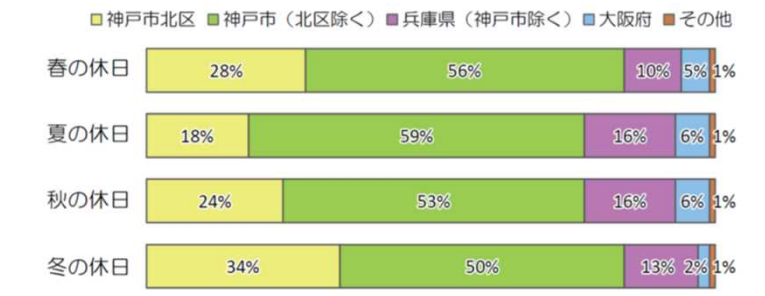
課題＝公園の魅力向上による利用促進

- 神戸地区は平成28年5月に第1期開園し、年間利用者数は約4～5万人で推移。増加傾向にあるが、淡路地区や隣接するしあわせの村等の利用状況を踏まえると、一層の利用促進の取組が必要
- 質の高い里山体験プログラム・イベントは参加者の満足度は高いが、ガイド等が必要なため実施日数・参加人数が限定されること、里山保全の観点から大規模な花修景は実施していないこと等から、神戸地区の特性に応じて集客性の高い施設・サービスの導入が必要
- 公共事業の厳しい予算状況において公園の魅力を向上するためには、官民連携事業の導入、地域との広域的な観光連携など、多様な主体との連携による公園利活用の活性化が必要

■神戸地区の利用者数の推移



■神戸地区の利用者の居住地



令和元年度～令和3年度国営明石海峡公園利用実態調査をもとに作成

■官民連携事業の導入検討 マーケットサウンディング調査

国営明石海峡公園神戸地区「森のゾーン」
マーケットサウンディング調査のご案内

HYGGE
～居心地よい空間へ～

都心に近い豊かな里山で
だれもが居心地よい公園づくりの
パートナーを募集します。

エントリー締切
令和4年1月31日(月)
17:00まで

事前説明会・現地見学会
令和4年1月17日(月)
<午前十時～午後1時15分(※)>

日程の実施期間
令和4年2月28日(月)
～3月4日(金)

マーケットサウンディング調査の
詳細は別紙に完結しています！
<https://www.kkr.mlit.go.jp/akashi/>

調査対象地：神戸地区「森のゾーン」
官民対話：令和4年2～3月
参加事業者：11社
事業提案例：キャンプ、バーベキュー場、
アスレチック、林間スポーツ、
カフェ、アウトアショップ等

■神戸市の里山観光モデルツアーとの連携 (令和5年1月15日)



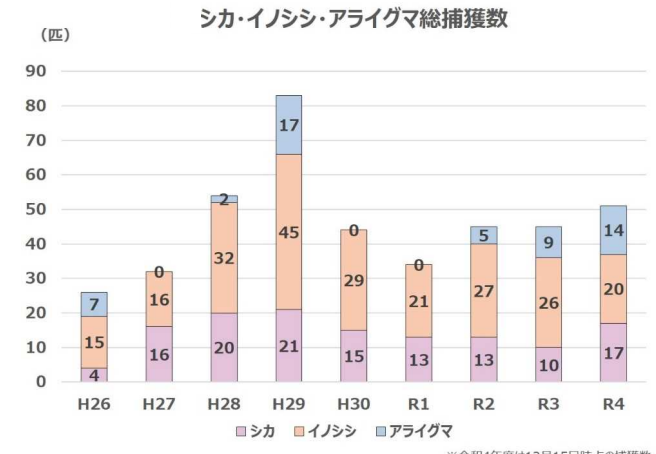
課題 = 里山環境の持続可能な保全活用

- 平成5年度事業化後、未開園区域の維持管理は管理用通路の除草、危険木の除去等が中心であり、**多くの里地里山、棚田跡は粗放管理**の状況
- 近年は**動植物の外来種対策**に加え、**シカ・イノシシ等の拡大防止、ナラ枯れ防止**の対策の推進が、本公園を含む地域の重要課題となっている
- 広大な里地里山や棚田跡を従前利用されていた環境に全て再生することは困難。今日の社会状況等を踏まえた**持続可能な里山の保全活用**の方法を、**産官学民の関係者との協働**で検討・試行することが必要

■ 未開園区域の管理用通路の維持



■ 獣害対策（平成26年度～）



■ 里地里山の利活用に向けた試行



プレーパーク試行（令和2年度～）
地域のプレーパーク団体と連携し里山環境を活用した子どもの遊び場の可能性を検討

■ 外来種対策



利用者参加によるため池のかいぼり

■ ナラ枯れ対策（令和元年度～）



ナラ枯れの様子 粘着シートでのカノガ 付クムシ防除



茅場づくり試行（令和4年度～）
園内のススキの種から苗を育てて、関係団体の協力を得て植栽。茅葺き建物の茅材として活用を目指す



アメリカザリガニ釣り